midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

７月号の１枚：森の音楽会、草笛

［巻頭言］　事実の子たれ

日記の第一ページにこんな言葉を書き記していた

「事実の子たれ、理論の奴隷なる勿れ。事実をことごとく信ぜよ。然らば、事実と理論が相衝突する如くに見ゆることありと言えども、敢て心を痛ましむる要なし。

事実は終には相調和すべし。宗教的なると科学的なると哲学的なると実際的なるとに関わらず、全ての事実は終に一大事となって現るべし（内村鑑三）。」

書物を整理していると高校生時代の日記が出てきた。日記の第一ページにこんな言葉を書き記していた。青春時代は、どんな生き方をすればよいか悩み苦しむ懐かしい日々だ。緑のダム活動に参加してくる若者たちも同じ思いに悩みながら森に来ているのだろう。年配者の我々の生き様が、少しでも彼らの心を明るくしているだろうか。

森林活動がそれなりに固まって来たので、外に呼びかける活動を少しずつ広げている。森の外の世界は、魑魅魍魎（ちみもうりょう：化け物の世界）の世界である。化け物にも善化け物、悪化け物の２種類あるが、どちらかと言うと悪化け物がはびこっている。森に参加する若者たちは、この森で善と悪を見分ける力を養って森から外に雄飛して欲しい。

森に参加する年配者は若者に学び、青春を取り戻し、善の化け物に立ち返って森の外の世界の悪の化け物と戦って行きたい。悪の化け物の主張も一見、尤もらしい説得力がある。それを見破ることのできるのは事実の子だけである。

頭脳明晰で机上理論を良くこなす高学歴官僚が出世して高給を取る。現場事実を知らないままに机上理論が横行する。１０年以上の前の話しだが、某高学歴・高位の環境官僚が「自分たちは、理論を論ずるのであって森林現場作業員ではない」とも「環境省幹部として十分に停年まで働いた。後の事は知らない」と言った。事実を検証しないまま、国の政策が決まると大変な事になる。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.07

7月 1日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

7月15日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

6月3日（第一日曜日）

今回の小原定例活動には緑のダム北相模から4名、ForestNova☆の学生が麻布大学から2名、東京農業大学から1名、桂北小学校から1名の計8名が参加しました。

この週は天気が安定しない日々が続いていました。定例活動日の朝も、相模湖では一時的に大雨が降っていましたが、朝の集合の時点では時折青空がうかがえるくらいに天気が良くなっていたため小原へ向かいました。

今回の活動は2月の嵐の際に倒れてしまった欅の処理と、孫山のハイキングコースにつなげる予定の径路づくりを引き続き行う予定でした。しかし、小原に到着して欅の処理をどうするか相談しているところに雨が降り出してしまい、次第に雷鳴も響くようになってしまったため作業を中止し、小原の郷に避難しました。

午前中はどうも天気が回復しそうもなかったため、そのまま小原の郷で緑のダム北相模の取り組んできた「森の積み木プロジェクト」と「林地団地化」の取り組みについて参加メンバー全員で勉強会兼振り返りをおこないました。森の管理維持のためには産官学民の共同がとても大切で、私たち学生がどのような行動をしていくべきか再確認することができました。

お昼ごはんを食べ終わる頃には天気も回復したため、予定通り林内に入り欅の処理を行うことにしました。今回は参加人数が少なかったため欅の処理に専念し、径路の整備は行いませんでした。

緑のダム北相模の方が直径30センチほどの材を2メートルの長さに玉伐りをし、学生が中心となって丸太を板状に加工しました。また、この日は簡易製材機のレールを新たに1セット購入したため、その組み立ても行っていました。これまでは単管パイプを組み合わせた物と、正規品のレールの2種類を使っていましたが、同型のレールにしたため、今までは2メートルの材の製材まではできましたが、同型のレールをつなげることで4メートルの材の製材もできるようになりました。
道具が扱いやすくなったことで、これまでよりも安全に作業できると思われます。学生の間でも道具の扱いを覚え安全に作業を進められるよう注意していきたいと思います。

活動後は5月に小原にオープンした「夢屋」さんの所へご飯を食べに行きました。地元の方々がいつも温かく迎えてくれるため楽しい時間を過ごせました。いつもありがとうございます。

植木　聡（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

6月17日（第三日曜日）

「雨の森もさわやかに・・・森の草笛教室！」

梅雨・小雨で蒸すこの日、森の中ではドクダミの健康にいい！？香りで満ちていた。

参加者はForestNova40名、望星高校と高井戸中ＯＢ（現役生は期末試験中）の計７名、生命の森宣言東京から２名、一般参加21名、合計70名。

麻布大のForestNova瀬戸学生たちの声掛けで大学９校（麻布大、跡見女子大、日大、明大、法政大、東京都市大、玉川大、多摩美大、早稲田大）から参加。その若者パワーで何時しか晴れた森。

学生たちは、３班に分かれた。川田・内野両リーダーに率いられて森内探索班、木工グループ班、ノバの森での林内製材・加工班と３班。

この森での学生による森林整備活動での４年生は、毎年卒業して社会に旅立つが、学生活動開始以来５年　間、素晴らしい後継者を育んでいく。今日の９大学もの参加は感動ものだ。熟年者たちも、こんな若者に対し敬愛の眼差しを以て、頼もしい嬉しいと感無量なものがある。

先月、32名もの参加のあった「生命の森宣言・東京班」は、東海自然遊歩道沿いの新しい整備地の作業計画を立てるために藪に潜り込んでいった。

高井戸中＋望星高校は、定期試験で中学生はお休み。望星高校は新入生中心だが、これからも森に参加したいという精鋭揃い。さっそく下刈りに精を出していた。

左上：嵐山のホタルブクロ
左下：森を案内するForestNova
右：下刈りに励む高校生

お昼のトマトスープ味のヌードルスープを美味しく食べた後は・・、待ってました！、お久しぶりの「森の中の音楽会・・・草笛教室」。指導員は、全日本森林インストラクター神奈川会・副会長でもある瀬尾さん。何時ものたくましき森の男女たちが、瀬尾さんのご指導で童心に戻って頬を膨らます。スー、とかプシュー、とか。鳴った鳴ったと小躍りしている。瀬尾さんによると草笛は、遠方との通信手段にも使われたと言う話。それなりに吹けるようになるには１週間位の練習が必要らしいと言う事で、最後は皆で「ふるさと」や「四季の歌」などを合唱した。森の中で、こんな楽しい事が出来る喜びの余韻が残った。

伊藤小夜子（本会、会員）

また、初参加の方から感想を寄せていただいたのでご紹介します。

相模原市のさくら祭りにて緑のダムさん、フォレストノバさんのブースに立ち寄らせていただいた経緯で今回初参加させていただきました。

森林作業は初めてであった為、どんなことをするのだろうか、また前日の雨で不安な気持ちでの参加ではありましたが、朝礼にてどのようなことをされているか理解が出来、学生さんのグループに付いて廻らせていただきました。まずオリエンテーションのグループの内野さんの説明で散策させていただき、山に生えている植物、生態系について学ばせていただきました。午後からは森林整備グループに加わり、森林道の整備、間伐材の加工を学生さんがやるところを見学させていただきました。学生さんが主体的に活動している様子は大変すばらしく頼もしい限りでした。

森での作業はとても気持ちが良く、さらに元気をいただいた気がしております。

また参加させていただきますのでよろしくお願いいたします。

中村 行宏（相模原市）

[報告１]
湘南の森活動報告

5月26日

この日は、暑いくらいの快晴、まさに皐月晴れ。こ の日も三班に分かれて、植林苗の見回りと手入れ、ヤ マザクラの苗は毛虫の食害を受けて、丸坊主状態のモ ノもあり、先行きが心配される。一番元気なのはイロ ハモミジのようです。

小生は先日の林業研修の成果を平塚市との協働事 業に早速生かすべく、高久さんと二人で浅間山付近の 樹木調査を開始。午後からは、田中さん太田さんの女 性陣にも手伝ってもらって、合計20 本の調査を完了 出来た。普段ちらっと眺めるだけで通り過ぎていた 木々も、しっかりと太さを測り、樹高を測定し、枝張 りの状況を観察してみると、見落としていたことが 色々と分ってきます。特にサクラ（ソメイヨシノ）の 老朽化が激しく、テングス病にはかかるし、主要な枝 が枯れていたり、極端な例では全部が枯死していたり と散々な状態であることがわかりました。それに反し て、コナラ、ミズキ等は極めて健全な姿を保っており、 今後のこの森の再生はサクラをいかに処理してゆく かということが重要であることが、良く分りました。 若い苗がすくすく育ち、その脇で瀕死の老木がかろ うじて生きている、こんな森をどう再生させてゆく か、 これからのやりがいが大きくなりました。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
ForestNova
新入生自己紹介

桜が咲き誇り春の息吹を感じさせる4月、学生団体ForestNova☆にも未来へとつながる新しい力が続々と入ってきました。季節は過ぎ、6月となった今ではお互いに遠慮をし合う時期はとっくに終わり、共に森への思いを馳せる日々が続いております。

今回はこれからForestNova☆の根っこを共につくりあげていく新入生達に自己紹介と、今後への思いを教えてもらいました。

私は、近年の素晴らしく勢いのある科学技術を応用して人類によってもたらされたさまざまな環境問題を環境に配慮しながら、なるべく環境自身の自然治癒力のような力をひきだすような形で環境問題や環境問題によって被害を被った人々や生き物などを、その地域にあった形で、環境問題だと叫ばれる以前の均衡の保たれていた状態に戻したいという思いがあります。

ForestNova☆は実際に森に行ってさまざまな活動をしているので、より身近に環境について考えることができるのではと思いました。今後は活動に参加し、自分なりに環境についていろいろと考えたり、勉強したりしていきたいと思います。

麻布大学1年　三神　咲

初めて嵐山の森を訪れたときの檜の香りや身体に残ったやり遂げた感覚が忘れられないでいます。ホームセンターで見かける材や本やメディアで耳にする森とは圧倒的に異なる本物の森・材が相模原という地域にあったという事実に驚かされました。 美術のもつ視覚的効果・本質への問いかけを新たな場で生かしながらも、制作の素材として注目している木材について、ただ制作の素材としてではなく、地域や土地柄・林業に携わる人々・森の現状も含めて何かしらの形にしていくための研究をしていきたいと考えています。私の学んできた事とは全く異なるメンバーとコミュニケーションしていくことは難しさがありながらも、何気ない会話も森に関する知識も全てにおいて勉強の連続です。

女子美術大学3年　吉田　あさぎ

今年は、麻布大学の1年生はもちろん、女子美術大学の3年時から入ってきていただいた吉田あさぎさんが加わり、ますます学生団体らしさが出てきています。

これからも、一緒に活動している皆様との繋がりを大事にし、一歩一歩地道に森の良さを伝えていけるような活動をしていきたいと思っています。

[報告３]
第１０期定例総会報告

6月17日

定例活動終了後、１５時４５分～１７時まで年次・通常総会を開催した。

第１号議案

2011年度活動報告・収支決算

・活動報告　[1]相模原市との協働事業；林地団地化集約施業の最終年、津久井郡森林組合に引き継いで終了。[2]政策提言：「相模原、内陸・グリーンハブ都市構想」は、「さがみはら森林ビジョン」となって、その予算化と実行計画が市の手によって進められるに至った経過報告。[3]3.11大震災への支援活動報告。

・個別の活動は、着々と成果を挙げながら森林整備を進めている。

2011年の参加者は、各班が夫々に行う各種森林広報イベントを除いて計984名。森林外での活動は、カウントできないが数千人にはなっている。収支決算は最終ページの別表を参照。

２０１２年度活動計画・収支予算

・活動計画[1]森林活動の充実を勧めながら、[2]地域(神奈川県・相模原市)林政との協働、[3]「さがみはら森林ビジョン」の事業化推進支援

第1号議案及び第2号議案は賛成多数で承認されました。

◎訂正：収支予算書の前期繰越収支差額の金額が間違っておりました。収支予算の正しい金額は、次の通りです。

・収支予算　収入(予定）4,357,000円、前期繰入 5,372,762円、予算合計9,729,762円。

慎んでお詫びと訂正をさせて頂きます。

石村　黄仁（本会 代表理事）

[報告４]
オールソフィアンズフェエスティバル2012報告

5月27日

3万個の積み木をお借りして、レンガ造りの建物を作るイベントを行いました。

これは上智大学の卒業生のお祭り「オール ソフィアンズ フェスティバル（ASF）2012」の中で行われたもの。参加したのは地元の小学生、上智大学卒業生の子弟、杉並区立高井戸中学校地球環境部のみなさんとその卒業生、上智大学の現役学生や卒業生といった幅広い年齢層のみなさん。上智大学アジア人材養成研究センター（緑のダム北相模会員）阿部千依さんと杉並区立高井戸中学校（緑のダム北相模理事）宮村連理先生の指導のもと、図面や写真を見ながら積み木を積んでいきます。上智大学が長年研究し環境維持と復元に協力しているカンボジアのアンコールワット遺跡と、大正から昭和のはじめにかけて使われていた上智大学の赤レンガ校舎を作りました。アンコールワットは過去に作成した経験を生かして順調に完成。一方、今回初めて作る赤レンガ校舎の復元は好天による暑さもあって、2012年4月に東京駅のれんが駅舎を復元した経験のあるメンバーにとっても、予想以上の大変な作業となりました。参加者は粘り強く終日作業を続け、夕方には無事完成。ブルーシートの上に天然の木の色が映える美しい仕上がりとなりました。

積み木を積みながら、積み木がやってきた相模の森に思いを馳せ、構造に工夫をこらし、語り合いながら共同作業を行うこの積み木イベント。教育効果もあり、コミュニケーションの機会も提供できる企画として好評で、来年も実施する予定です。また、さらに多くの子どもたちにこの楽しい企画を届けようと、出前授業も計画されています。緑のダム北相模の積み木を使って、環境教育の輪がこれからも広がります。

冨田　八枝子
（ASF2012実行委員会）

[報告５]
「相模湖嵐山の森」の森林保全活動に参加して

6月17日

6月17日の「相模湖嵐山の森」の定例活動に、東京学芸大学から2名（樋口、秦）がお邪魔させていただきました。相模湖駅から森まで歩きながら、駅から徒歩20分という近さはアクセスしやすい場所だなと感じましたし、そしてこの道はたしか高尾山への（からの）ハイキングコースではなかっただろうかということを思い出しました。

久しぶりの下草刈り・間伐でしたので、息を切らしながらの作業でしたが、私にとって清々しい1日となりました。自然に触れる活動は人の気持ちをリフレッシュさせるものだとあらためて納得した次第です。

森の作業には大勢の人が必要ですが、「相模湖嵐山の森」では、多くの方々、多くの若い大学生や高校生が汗を流しておられる様子を見ることができ、勉強させられました。どうしてこんなに大勢のボランティアの人たちが集まるのだろうかと不思議でした。こうした活動は参加者に勇気を与えるだろうし、人に意欲や勇気をもたせる環境保全活動はこれからの自然保護に必要な要素となるなと確信しました。

今年の夏（8月19日）に東京学芸大学の学生を連れて「相模湖嵐山の森」伺う計画をしておりまして、今回の訪問は下見でした。今年の夏に東京学芸大学において「環境教育リーダー養成講座」発足させる計画をしておりまして、参加希望の大学1－2年生を引率し環境保全の活動をしておられる様々な場所を訪問していく予定です。そうした体験の1つとして、「相模湖嵐山の森」に伺わせていただきたいと思っておりますので、よろしくご理解いただけると幸いです。また、私たちの参加が「相模湖嵐山の森」の活動に少しでも寄与できることを願っております。

樋口　利彦（東京学芸大学
環境教育研究センター）

[事務局からのお知らせ、お願い]

都立中央図書館企画展示「東京駅ーよみがえる赤レンガ駅舎ー」にポスター出展

5月19日（土）から6月17日（日）まで同図書館で行われている企画展に杉並区立高井戸中学校地球環境部の生徒が制作した積み木の東京駅ポスターと本会の積み木のサンプルを展示しました。

2011年度収支報告、単位：円

貸借対照表	財産目録	損益計算書
資産　8,073,724	流動資産　7,456,562	当期収入　6,152,275
負債　6,300	固定資産　617,162	前期繰入　4,087,341
----------	負債　6,300	収入合計　10,239,616
----------	----------	当期支出　4,866,854
----------	----------	収支差額　1,285,421
合計　8,073,724	合計　8,073,724	次期繰越　5,372,762

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版